

ブルーシート

雨が降りしきる。

ホームレスがブルーシートにくるまっている。
傘を持った職員がやってくる

職員 ああ

ホームレス ん

職員 あぶないですよ

ホームレス なにが

職員 雨。知らないんですか、台風来てるんですよ。

ホームレス ああ、大丈夫だよ。これ、あったかいし。

といい、さらにブルーシートを体に巻きつける。

職員 いや、そういう問題じゃなくて、沈みま

すよ。ここ。氾濫して。

ホームレス ん…

ホームレス、立ち上がり、近くにあった缶を地面におき、おもいきり踏みつけてはまた、缶を置いて踏みつける。

職員 ああ

ホームレス ん？

職員 なにしてるんですか

ホームレス 仕事。

職員 仕事ってねえ、あなた。

ホームレス しょうがないでしょ、生きていけないん

だから。仕事しないと。

職員 そりやまあね、わたしもそうだから

ホームレス え？

職員 ああ、だから私も仕事なんですよ、避難

させる

ホームレス お偉いさんなの

職員 お偉いさんはこんなところないですよ、

下っ端ですよ、下っ端。

ホームレス 俺からしたってあんたもえらいさ。立派

に働いて

職員 え？

ホームレス いや、おれだって自分じゃちゃんと働い

てるって思ってるさ。でも、なんていう

の、縛られたくないんだよ、そういう会

社とか役職とか、みんな、冷たいじゃん。

頭固くてさ。

職員 はあ

ホームレス あんたの前にも、年寄りの役所の人が来

てさ、片付けろだのなんだの。

職員 公共の場所ですからね

ホームレス それなら、俺の場所でもあるじゃんか。

職員 いや、それは

ホームレス こうしてる方が楽なんだよ、アルミ缶潰

して、好きな時に働いて、そりや稼ぎは

少ないけど、自由だから。

自由なんですか。

ホームレス ああ、自由さ。だから、悪いね、ここが

好きなんだ。人もあんまりいないし、指

さされることもない。

職員 でも、ここにいたら、雨で。

ホームレス 他にどこに行くのさ。

職員 どっか、あるでしょう：公園とか

ホームレス 公園だって公共の場所じゃん

職員 それでも

ホームレス 嫌なんだよ、ほら、なんかみんな嫌がるじゃん。こないだ、電車乗ったらさ、なんかみんな違う車両行っちゃって一人貸切状態みたいな。そんなに臭いかなおれ。

職員 ええ

ホームレス えっ、やっぱり

職員 ：せめて、せめてですよ川の氾濫が収まるまでは。

ホームレス わかった、わかったから。

職員 え？

ホームレス こう言わなきゃ、帰れないんだろ。お役所仕事ってのは。

職員 いや、そうじゃなくて。別に帰ってもいいんですけど

ホームレス けど？

職員 生きてくださいよ

ホームレス はあ

職員 僕だって人間なんですから。

ホームレス なにそれ、俺が人間じゃないみたいな違います。人間だからですよ、人間だから生きてほしいんです。

職員、傘をホームレスの方にさす

ホームレス うれしいこというじゃねえか、兄さん。

ホームレス、職員の傘に入る

職員 あの、

ホームレス ん？

職員 臭います

ホームレス あ、

ホームレス、離れる。

職員 いや、ごめんなさい。

ホームレス いいんだいいんだ。いやあ、珍しい人だ。

あったかいなあ、いやあ、あったかい。

ブルーシートくらいあったかいぞ

といい、ブルーシートにくるまる

職員 ふざけてるんですか

ホームレス ふざけてなんかないさ。わかんないだろ、

あんた、ブルーシートのあったかさ。真

冬じゃこれがないと生きてけねえ。

職員 まだ秋ですよ

ホームレス だから、これからなんだよ。これが飛ば

されちゃ、どのみち死ぬんだ。

職員 うーん

ホームレス ありがとうよ。大丈夫だから。いくら気

ままに生きるったって、さすがにおれだ

って命は惜しいさ。

職員 頼みますよ

ホームレス ああ。ま、ブルーシートも惜しいけどな。

雨が強くなる。

職員　　じゃ、気をつけて。

ホームレス　どうも

職員、去る。

ホームレス、起き上がり、職員がさるのをじつと見る。そして視線を川に移す。雨はずっと降り続く。

ホームレス　寒いよ

ホームレス、ブルーシートに包まり眠る。

溶暗